

「新型コロナウイルス感染症の旅行市場への影響」調査より

国内宿泊旅行需要の変化

3月ごろから大きく落ち込んだ国内旅行の旅行者数は今後どうなっていくのか？
3月から5月にかけて行なった調査をもとに、この先の国内旅行の可能性を考えていく。

ウイルスへの不安

緊急事態宣言解除前後に向けて ウイルスへの不安感の上昇

新型コロナウイルス問題を受け、今後の旅行意向はどうなっていくのか？
まずはどんな人がどのよう不安を感じているかを見ておこう。

不安感が高いのは60歳以上女性
人混みや外出は控える人が多数

新型コロナウイルスをめぐる状況は日々変化してきて、人々の気持ちも少しずつ変化していく。今回の調査は、3回に分けて人々の旅行に対する意識を追うことで、今後誰が、いつ、どんな旅行に行く可能性があるのかを

探った。なお、調査を行ったタイミングについては表1を参照のうえ、得られた結果がこの時点のものであることに留意していただきたい。そもそもウイルスに対する不安の感じ方は人によって濃淡がある。回答者を性・年代別(10歳刻み)に分けて不安度を見たところ、全体に男性より女性で不安を感じている人が多

い(図1)。また当初は比較的不安度の低かった30代男性や20代女性でも回を重ねるごとに数値が上昇。最終的には男性の約8割、女性の9割以上が不安を感じ、最高値は60歳以上女性、最低値は20代男性という結果になった。なお不安の本身は「効果的なワクチンや治療薬がない」「収束の見通しが立たない」「感染力が強い」がトップ3。対策としては「手洗い」「マスクの着用」を中心に、第3回にかけて「人混みに行かない」「外出を控える」「外食を控える」が増えている。

表1 新型コロナウイルス感染症に関する主な動きと調査実施のタイミング

1月16日	日本で最初の感染者を確認
1月28日	武漢から帰国する日本人のチャーター機第一便が出発、翌日朝に羽田空港着
2月5日	ダイヤモンド・プリンセス号の14日間の隔離開始
2月11日	WHOが新型コロナウイルス感染症の正式名称を「COVID-19」に決定
2月17日	3月2日から全国の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の一斉臨時休校を要請する方針発表
2月21日	日本での感染者が100人を超える
3月11日	WHOが世界での流行をパンデミック相当と見解
第1回調査 3月19日～20日	
3月21日	ダイヤモンド・プリンセス号の感染者を除く日本国内の累計感染者数が1000人を超える
3月24日	東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を1年程度延期することを発表
第2回調査 3月26日～27日	
4月5日	日本国内の累計死者数が100人を超える
4月7日	7都府県に「緊急事態宣言」を発令
4月16日	7日に発令した緊急事態宣言の対象地域を全都道府県に拡大
4月18日	日本での感染者が1万人、死者数は200人を超える
5月4日	緊急事態宣言の期間を5月31日まで延長することを発表
5月14日	39県について、緊急事態宣言を解除決定
第3回調査 5月15日～16日	
5月21日	京都、大阪、兵庫の関西2府1県について、緊急事態宣言を解除決定

フリーコメントより①

こんな不安で旅がしづらい

- 全国各地から人が集まることによりウイルス流入の危険が高いと思う。人が多い観光地にはしばらく行きたくない。(女性30代)
- 実際遊びに行ったら会社や世間からだいぶ非難されそうで怖い。(女性40代)
- 本当にソーシャルディスタンスが守れるのか、それが一番懸念されます。消毒やマスクは自分で用意出来ませんが…(女性40代)
- 知らない人と密になるのはいや。(女性60歳以上)

図1 新型コロナウイルスに対する不安度の変化 (不安・計、性・年代別)

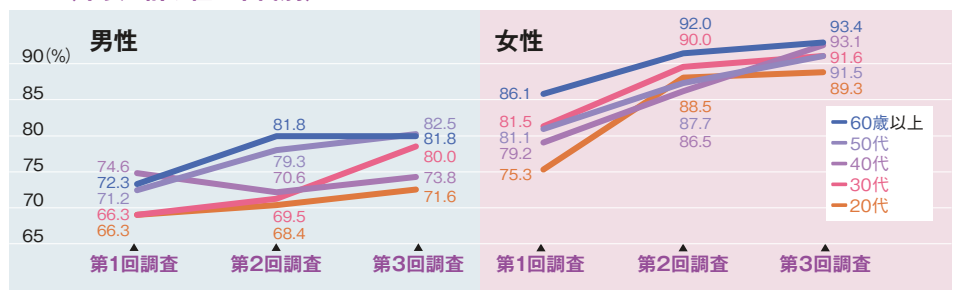


表2 希望する国内宿泊旅行の時期(旅行意向のある人、複数回答)

	2020年の夏休み(7月中旬～8月頃)前まで(%)	2020年の夏休み(7月中旬～8月頃)中(%)	2020年秋～年末頃まで(%)	2021年以降(%)	わからない・感染状況による(%)
全体(n=1434)	6.2	10.3	26.2	23.8	44.6
男性・計(n=705)	8.7	13.6	31.8	24.8	36.2
20代(n=70)	17.1	20.0	28.6	15.7	34.3
30代(n=170)	7.6	14.7	33.5	31.2	38.2
40代(n=104)	5.8	14.4	27.9	18.3	43.3
50代(n=127)	7.9	13.4	26.0	24.4	40.2
60歳以上(n=234)	8.5	10.7	36.3	26.1	29.9
女性・計(n=729)	3.8	7.1	20.9	22.9	52.7
20代(n=109)	4.6	15.6	22.0	33.0	42.2
30代(n=136)	2.2	7.4	19.9	22.8	55.9
40代(n=143)	4.9	7.0	14.7	25.9	55.9
50代(n=101)	5.9	7.9	32.7	15.8	44.6
60歳以上(n=240)	2.9	2.9	19.6	19.6	57.1
頻度別					
年3回以上(n=277)	15.9	21.7	34.3	20.6	33.6
年2回(n=287)	5.2	13.2	37.6	18.8	36.2
年1回(n=475)	4.6	7.2	27.2	29.9	40.2
ほとんど行かない(n=395)	2.0	4.1	11.1	22.5	63.5

■全体より10ポイント以上高いもの ■全体より10ポイント以上低いもの
 ■全体より5ポイント以上高いもの ■全体より5ポイント以上低いもの

今後の旅行意向

長引く自粛生活に伴って旅行に行きたい人は増えている？

緊急事態宣言を経た5月の調査では、旅行を自粛する一方、「旅行に行きたい」と思い始めた人々の姿が浮かび上がった。

「行きたい」は総じて増
20代男性はとくに積極的

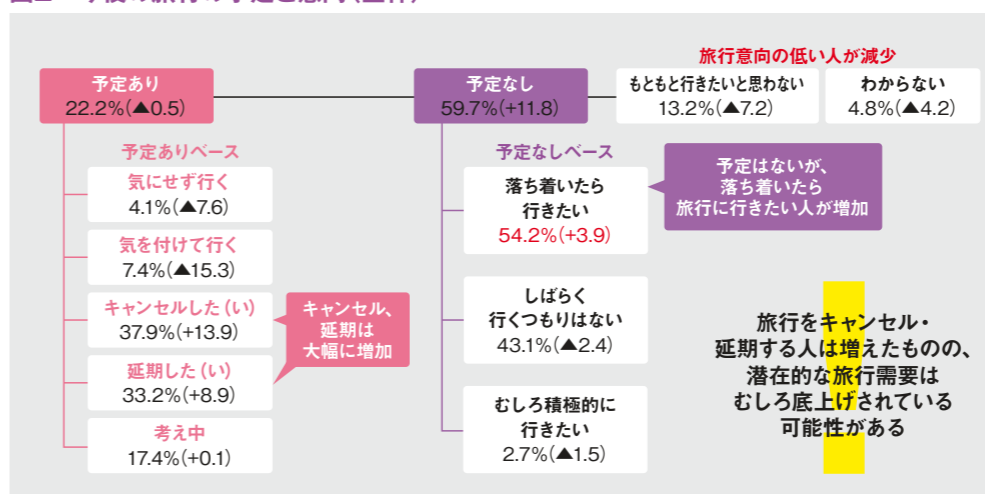
図2は、旅行計画の有無と今後どうしたいかを尋ね、その回答を、第2回(3月下旬)と第3回(5月中旬)で比較する形でまとめたものだ。それぞれ第3回の結果を示し、第2回からの増減をカッコ書きで示した。調査時点で旅行の「予定あり」という人は、前回から0・5ポイント減とあまり変わりはないが、大きく増えたのが「キャンセルした(い)(13・9ポイント増)」「延期した(い)(8・9ポイント増)」という回答。性・年代別に見ると、「キャンセル」についてはほぼすべての属性で10ポイント以上増、「延期」については30代女性では25・7ポイント増と、3月下旬より危機感が高まっている様子が窺える。一方、「気にせず行く」という回答は全体では4・1%と少ないが、20代男性では11・8%とやや多い。

「予定なし」という人は前回から11・8ポイント増えたが、その中で「落ち着いたら行きたい」人は3・9ポイント増えて54・2%に。性・年代別では30代男女と50代男性で約6割に上った。性・年代別で特徴的なのは、「むしろ積極的に行きたい」が、全体では2・7%のところ20代男性では9・5%である点。逆に60代女性では、全体では43・1%の「しばらく行くつもりはない」が54・0%と慎重さが窺えた。

「もともと行きたいと思わない」が13・2%と、前回と比べて3分の2程度になったのも目を引く。5月中旬の段階では、キャンセル、延期は増えたが、行きたい気持ちはむしろ高まっていたようだ。

ちなみに、同じ問いを旅行頻度別に見ると、旅行頻度の高いリピーターでは回を重ねるごとにキャンセル、延期の割合が増えるが、「落ち着いたら行きたい」割合はどの属性においても増えている。自粛生活が長くなるにつれ、旅行にそれほど積極的でない人にまで「行きたい」気持ちが生えていると考えることができそう。

図2 今後の旅行の予定と意向(全体)



フリーコメントより②
今思うのはこんなことです

- 旅行に行きたいけれど…
- コンビニのトイレが使えなくなった事が気がかり。子供がいるので、急なトイレでコンビニの存在は欠かせない。(女性40代)
 - 旅館のスタッフや自分たちはしっかり予防策をしているが、ほかの利用者がしっかり予防策をとっていないのか不安を感じる。(女性20代)
 - 地方の受け入れ態勢が不安。早く出迎えて欲しい。(男性60歳以上)
 - 公共交通機関の混雑が予測がつきにくいので、出かけるタイミングが難しい。(女性60歳以上)
 - 予約してお金を前払いしたのに、急に旅館やホテルが破産するんじゃないかと心配。(男性30代)

やっぱりまだ行けない…

- 家を一步出ただけで、荷物が気になり、前からく人が気になりという具合に、気が休まる暇がない。(中略)家が一番。(女性60歳以上)
- 自粛が続く中で収入が減り、(中略)正直旅行どころではない。(女性60歳以上)

対策はほどほどで十分

- 身分証明書の提示が普及すると、憚られる。そこまではどうかと思っている。(女性40代)

旅行再開時期

早期の動きが期待できるとすれば若年男性とリピーター

自粛明け直後、早期の誘客で狙うべきは、「早く旅行を再開したい」と考えている層だ。

「行きたい」という気持ちはあるものの、「いつ行きたいか」との問いには、全体の半数近くが「わからない・感染状況による」と回答(表2)。とくに女性に態度保留が多く、収束宣言次第で一気に動くことも考えられるとはいえず、再開時期が遅くなる可能性は高い。早めの旅行意向を示したのは、性・年代別では20代男性、旅行頻度別では年3回以上の旅行リピーター層。当面はこうした層を対象に、withコロナ早期の旅行を提案していくことになるだろう。

言次第で一気に動くことも考えられるとはいえず、再開時期が遅くなる可能性は高い。早めの旅行意向を示したのは、性・年代別では20代男性、旅行頻度別では年3回以上の旅行リピーター層。当面はこうした層を対象に、withコロナ早期の旅行を提案していくことになるだろう。

Wirh コロナの旅行スタイル

当面は「コロナ時代」を意識した特別なニーズが中心に

時期によって変化する、コロナ後に「したい旅行」。いつ頃、どんな旅行にニーズがあるのかを見ていこう。

旅行再開最初期にはアクティブな旅行にニーズあり

図3は、「行くとしたらどのような旅行目的を考えているか」を時期別に尋ねた結果だ。時期の設定は5月の調査段階でのものだが、旅行を再開する場合に「どのような段階で何目的の旅行をしたいか」という意味だと考えていただきたい。

「食」は全体的に人気だが、最初期にあたる「夏休み前まで」に限ると、「アウトドア」や「まちあるき・都市散策」などのアクティブ旅行の需要が平常時より高い。この時期を旅行実施の候補にしている人に20代男性が多い影響もあるだろう。ただこうした傾向は一時的で、夏休み中になると「温泉や露天風呂」「テーマパーク」といったファミリー需要の高い目的が増え、その後、「温泉」「食」

フリーコメントより③
旅行業界にお願いしたいこと

- 情報開示してほしい
- 宿泊施設予約時に、想定混雑や、宿泊時にどれだけの濃厚接触のタイミングがあるかなど(食事のテーブル間隔、チェックアウトの時差など)事前に想定が分かると安心できます。(女性30代)
- 予約対応を柔軟に!
- 直前でも予約出来るようにしてほしい。コロナの影響で状況も変わりやすいので予約しても行けなくなる可能性もある。キャンセル料がかからないでくれると予約もしやすい。(女性20代)
- 温泉には入りたけれど…
- 各部屋に浴室があるところを選定したい。また食事はバイキング形式は心配なので、各個室でいただくことを希望したい。(男性60歳以上)
- ちゃんとリラックスしたいです
- 旅行先で従業員の方があまりにも、マスクや手袋や消毒液を持っているところが不安になるし、楽しみたい気持ちが冷めてしまう。ちゃんと実行してと貼り紙でよいと思う。難しいと思うが見えないところで徹底してほしい。(男性40代)
- トラブル対応態勢があると安心
- 旅行先で体調不良になった場合の病院探しが大変そうなので、現地での病院の案内が分かりやすく提示されていればよいと思う。(女性60歳以上)
- いい移動手段ありませんか?
- 感染を気にせずに移動できる手段が自家用車以外にあると旅行に行けるんだと思う。(男性60歳以上)

本調査の概要

調査名
新型コロナウイルス感染症の旅行市場への影響

調査方法
インターネットによる調査

調査期間
第1回: 2020年3月19日(木)～2020年3月20日(金)
第2回: 2020年3月26日(木)～2020年3月27日(金)
第3回: 2020年5月15日(金)～2020年5月16日(土)

調査目的
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大の旅行業界への影響度を旅行者の視点から測り、地域および宿泊施設を主とした今後の回復期に向けた具体的施策に役立てる

調査対象
○20歳以上のマクロミル会員モニター
○性別および年代(20～30代/40～50代/60歳以上)による均等割付を実施

サンプル数
1,652件

図3 希望する国内宿泊旅行の目的
(旅行意向のある人、期間別、複数回答)

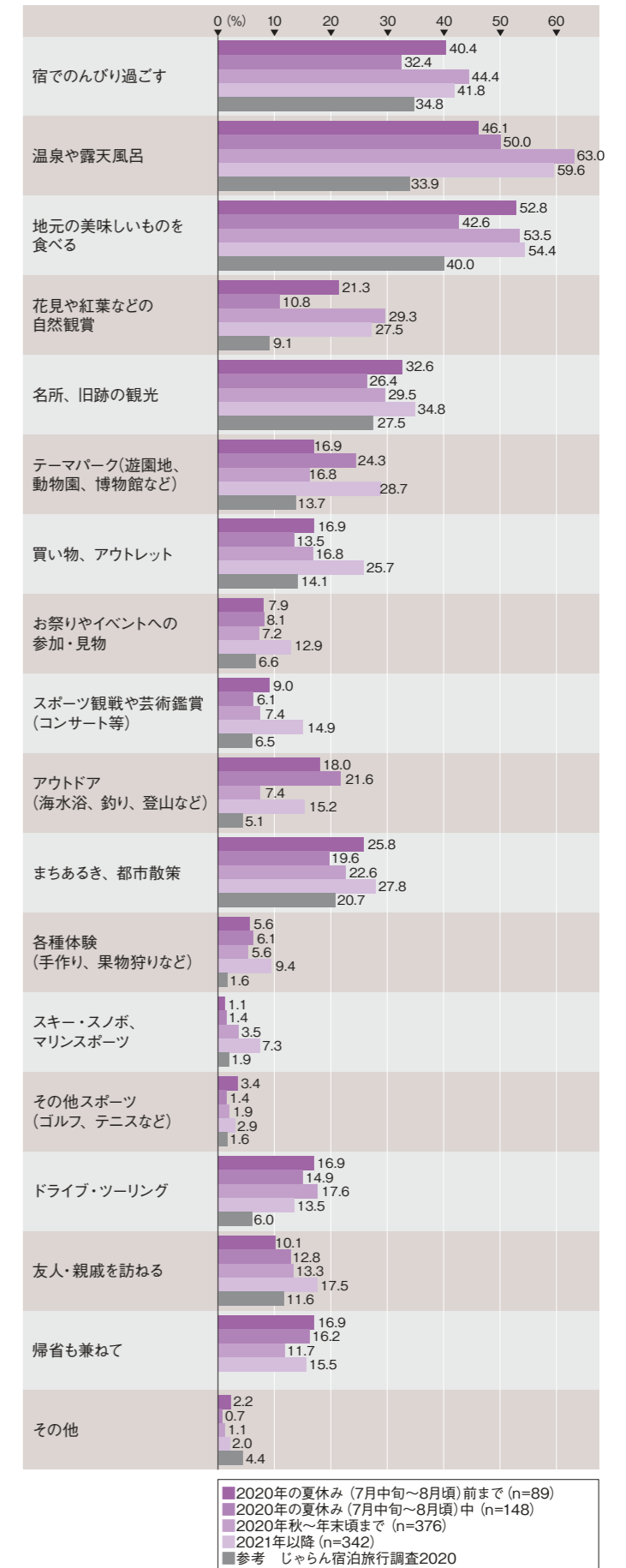
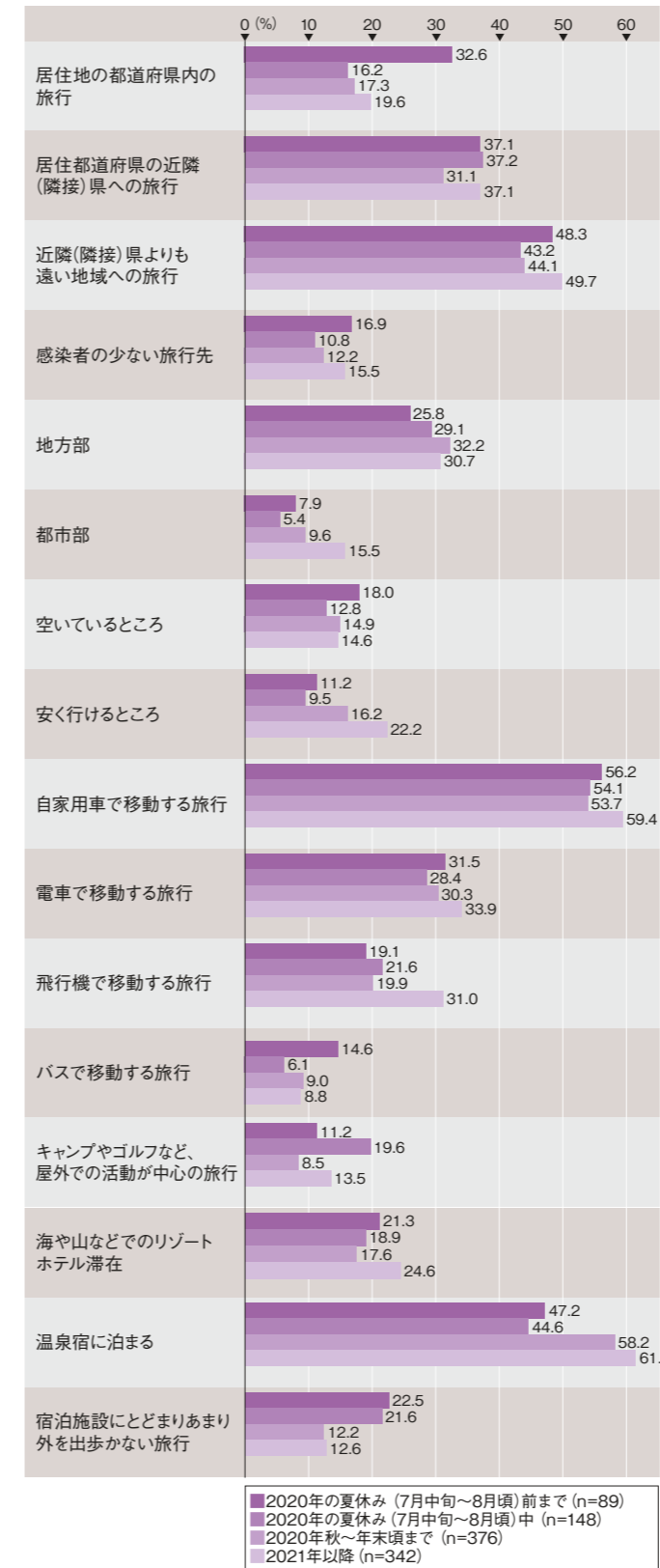


図4 希望する旅行スタイル
(旅行意向のある人、期間別、一部抜粋)



「買い物」などの従来の人気コンテンツが復活する。
「じゃらん宿泊旅行調査2020」のデータと比べてみると、全体により強く出ているのが「温泉」「自然観賞」「アウトドア」「ドライブ」などのニーズ。巣こもり生活の反動で外の風景やアクティビティ、国内旅行の王道とも言うべき温泉に心惹かれるということもあるのだろう。

マイクروتourリズムは一時的な現象で終わるそう？

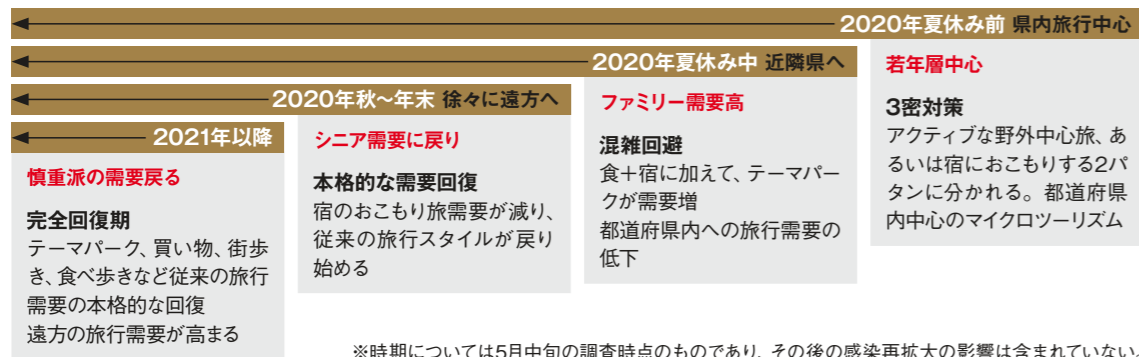
図4は「どのような旅行に行きたいか」を時期別に尋ねた結果。まず人との接触が少なそうな「宿泊施設にとどまりあまり外を出歩かない旅行」だが、需要は夏休みまでで秋口以降は低下。反面、公共交通機関を問わずに移動できる「自家用車」の需要は時期を問わず5割超と高い。「居住地の都道府県内の旅行」も最初は32・6%と人気だが、夏休みに入ると一気に減少。いわゆる「マイクروتourリズム」への動きは瞬間的で、旅先はすぐに近隣県へと拡大しよう。同時に、夏休み以降は「地方部」へのニーズが増え、「都市部」も若干回復。「居住都道府県の近隣」は一度は需要が下がるものの、一定のニーズは残る。

表3 施設に要望すること(具体的な衛生対応について)上位10項目

宿泊施設に求めること (n=1,434) (%)	屋内型施設に求めること (n=1,434) (%)	屋外型施設に求めること (n=1,434) (%)	
1 従業員がマスク・消毒を徹底して行っている	56.7	1 従業員がマスク・消毒を徹底して行っている	54.5
2 部屋の備品(TVチャンネルや充電器など)までチェックイン前に、消毒がされている	45.6	2 各部屋やスペースごとに消毒用アルコールがある	40.9
3 個室での食事	43.8	3 従業員の安全対策が、施設内・HPに掲載され、徹底している	36.3
4 各部屋やスペースごとに消毒用アルコールがある	42.5	4 従業員に検温を行っている	34.7
5 下駄や館内スリッパ等、共用物の消毒が徹底されている	40.3	5 共用スペースに消毒液が配置されている	34.0
6 従業員の安全対策が、施設内・HPに掲載され、徹底している	40.3	6 一日に数回換気を行っている	32.0
7 一日に数回換気を行っている	37.9	7 入館・入場人数に制限を設けている	31.0
8 共用スペースに消毒液が配置されている	37.7	8 並ぶ際にソーシャル・ディスタンスが守られている	30.1
9 従業員に検温を行っている	35.1	9 完全予約制で混雑が回避されている	29.7
10 チェックイン、チェックアウト時に混雑しないよう対策を取っている	33.7	10 個室での食事	29.2

調査実施時点の結果から言えば、本格的に旅行需要が戻るのは20年の秋以降。実際は、調査実施後の感染再拡大もあり、回復はもう少しあとになりそう。いずれにしても、まずは若年層から需要が戻り、次にファミリー層を含むミドル層、そして最後にシニア層が戻った頃であろう。従来の旅行スタイルが復活する流れ(図5)になるだろう。

図5 調査結果から得られた国内宿泊旅行市場 今後1年間の需要回復シナリオ



※時期については5月中旬の調査時点のものであり、その後の感染再拡大の影響は含まれていない。